

経営者はなぜファッション史を学ぶ必要があるのか



Kaori Nakano

まず、現代は経営者にアート感覚、美意識が必要とされている時代です。美しさと社会とはどういう関係にあるのか。美を通して人の心を動かし、行動を変え、ひいては社会変革をもたらすとはどういうことをさすのか。個々の具体例を知ることによって、真・善・美という人間にとつて普遍的な価値に判断を下すための、幅広い視野をもつことができます。

次に、流行が生まれる仕組みを考えるためのヒントを得ることができます。都市の景観にまで影響力を及ぼす資本家がどのように「時代の先を見て」布石を打っているのか。トレンド発信源の行動原理を知ること、次に何が来るのか、想像力を働かせることができます。

3つめ、グローバルに闘うエグゼクティブにとつては、そもそもモードの教養はアートや音楽の教養と同様、必須です。20世紀にはオペラの幕間に重要な外交の話がなされることもありました。現代のビジネスシーンでは、クリエイティブディレクターの移籍情報、次のファッション展のテーマなどが普通に雑談として交わされます。海外の一流紙はコレクションの最新情報を掲載しますが、それは着こなし云々という表層的な観点からではなく、次のような美意識が話題になるのかという観点で読まれます。グローバルビジネスのネットワークに関わり続けるためにも、

モードの基本的教養は不可欠なのです。そこまでの武器は不要という場合でも、モードを通して社会変革をもたらした「人」の生き方そのものがインスピレーションの宝庫です。それぞれの本質を解放して独自の流儀を生みだし、プロセスそのものにコミットした結果、果実を生み、社会変革をもたらしたクリエイターや経営者から、明日への豊かなヒントが得られます。

なによりも彼らの仕事から伝わってくるのは、人が人として美しく存在することに対する全肯定、祝福です。人が生きることの基本を考えさせるという意味で、アパレル史は表層的ではなく、むしろ根源的です。

あ、やはり宣伝ほいですね。でもいまだ軽んじられがちなファッションスタディーズを擁護するにはこのくらいの姿勢が必要なのです。引き続き、社会に問うていきます。



なかの かおり

1962年生まれ、富山市出身。服飾史家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女子大学客員教授、企業の顧問を務める。株式会社Kaori Nakano代表取締役。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書に、「『イノベーター』で読むアパレル全史」(日本実業出版社)、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」(吉川弘文館)ほか多数。

『「イノベーター」で読むアパレル全史』(日本実業出版社)を出版しました。モードによって社会を変えたイノベーターたちの列伝、といった趣向のビジネス教養書です。デザイナー、クリエイターばかりでなく、経営者やジャーナリスト、芸員までカバーして56名、彼らの「モード」によって社会を変えた功績」に焦点を絞って書きました。

今回の本は、はじめて執筆したビジネス

ス書となります。ビジネスパーソンや経営者に、どのように訴えることができるのか、考え続けていました。完成して時間を置き、読者になりました。冷静に読み直してみました。すると、本書の別の側面が見えてきました。宣伝めいて恐縮なのですが、「ファッションはよくわからん」という一般のビジネスパーソンが、アパレル・ファッション史を学ぶ意義があるとしたらそれは何なのか、列挙してみます。